

第3回 SACLA 選定委員会 議事概要

1. 日時

平成 24 年 1 月 24 日（火） 13:00～15:00

2. 場所

丸ビルホール&コンファレンススクエア Room 5（東京都千代田区丸の内）

3. 出席者（敬称等略）

- 委員 坂田誠（委員長）、雨宮慶幸、太田俊明、武田晴夫、月原富武、
三間罔興、元廣友美
- JASRI 白川哲久、熊谷教孝、野田健治、後藤俊治、矢橋牧名、
大野英雄、鈴木昌世
- オブザーバ （文部科学省量子放射線研究推進室）原克彦、小野田敬
（理化学研究所）根本光宏、生越満
- 事務局 牧田知子、杉本正吾、坂川琢磨、田口哲也

4. 配付資料

- （1）平成 23～24 年度 SACLA 選定委員会委員名簿
- （2）第 2 回 SACLA 選定委員会議事概要
- （3）審議事項
 - ① 2012A 期の SACLA 利用研究課題審査結果について
(詳細資料は本委員会終了後回収)
 - ② 2012B 期の SACLA 利用研究課題公募及び審査体制について（案）
 - ③ 登録機関 JASRI の法第 12 条利用について（案）
- （4）報告事項
 - ① SACLA 利用研究課題の成果の公開について

5. 議事

- （1）開会
 - JASRI 白川理事長より、

- ・昨年 10 月 6 日より課題公募を開始したこと
- ・同年 12 月 15 日に公募を締め切り、55 課題の応募があり、うち 12 課題は海外からの応募であったこと
- ・最初の利用期の公募としては、当該応募数は SACLA に対する国内外の研究者等の関心の高さを表した結果であると考えていること
- ・SACLA 利用研究課題審査委員会（SACLA PRC: Proposal Review Committee 以下、「SACLA PRC」）を立ち上げ、課題審査を行ったこと

等の挨拶があった。

○原文部科学省量子放射線研究推進室長より

- ・供用開始を迎えるにあたり、国としては幅広い活用を図っていただくための仕組み作りや、目に見える成果を早く国民に示すことが何よりも重要であると考えていること
- ・以上の促進の観点から、来年度予算において XFEL 重点戦略研究課題に係る新しい文部科学省直轄のプロジェクト（予算額は 10 億円を予定）を進めること

等の挨拶があった。

（2）審議事項（以下、◇＝委員長又は委員、◆＝JASRI）

① 2012A 期の SACLA 利用研究課題審査結果について

SACLA PRC 委員長である雨宮委員より説明の後、以下の主な意見があった。

◇SACLA の利用が不可欠な課題、すなわち SLAC/LCLS ではできないような SACLA による独自の提案課題はどの程度あったか。また、一般課題は、想定外の思いもよらないような課題があったのか。

◇基本的には、全て SACLA でなければできない課題のみを採択した。その際、その課題が、SLAC/LCLS でできるか否かに関しては特に注意を払わなかった。国内の応募は、日本国内に SACLA ができたので、というのが応募の大きな動機であると思う。一方、海外からの応募課題においては、積極的に SACLA を使ってみようというものと、SLAC/LCLS を使おうとしたがビームタイムがないという理由によるもの

があると考えられる。

一般課題については、想定内外以前におのずと現時点での装置側のフ
ィージビリティに寄るところとなった。なお、審査にあたっては、施
設側で装置等を立ち上げている現場の意見も聴きながら行った。

◆シンボリックな応募課題として、SLAC/LCLS 立ち上げ当事者がメン
バーに入っている課題がある。我々は施設間での情報交換会を定期的
に行っているが、そこで SACLA の特性等を知り、おそらくは SACLA
でないといけないと判断された課題であると思われる。

◇一般課題として応募されたが、これは重点戦略課題として取り扱うべ
き、というような課題はあったか。

◇特にそういう考慮は行わなかった。なお、重点戦略課題はその趣旨に
合致しているかについて審査した。

◇審査の段階で何か問題等はあったか。

◇一回目ではあったが、きっちりと審査できたものと考えている。

◇選定委員会として、本審査結果に基づく 25 課題を採択し、計 126 シフ
トを配分することを承認する。

② 2012B 期の SACLA 利用研究課題公募及び審査体制について（案）

JASRI より説明の後、以下の主な意見があった。

◇SACLA PRC の委員からは、事前の個別審査課題数が増えるよりも専
門分野外の課題を審査する方が大変であるとのコメントがあった。従
って、第 3 案（SACLA PRC 委員数を現 15 名から 20 名程度に増やす
とともに、1 課題あたりの事前個別審査課題数を同 5 人から 4 人にす
る）で委員を増やす場合には、分野のバランスに配慮して委員数が不
足している分野を中心に増やすことが重要。

◇審査体制は、ある程度落ち着くまでは、走りながら適宜見直すという
方針で進める必要がある。将来的には現 SPring-8 のような形になって
くるであろう。

◇2012B 期の公募時においては、2012A 期からの継続的課題に関し、A
期の何らかの情報、例えば実施済課題については実験が上手くできた
か・できなかったかというようなこと、あるいは未実施課題については
実験準備の状況など、A 期のフィードバックができるような情報を

課題申請時に記載するような項目が必要と考えている。

◇選定委員会として、2012B 期の課題審査体制は第 3 案にすることを承認する。

③ 登録機関 JASRI の法第 12 条利用について（案）

JASRI より説明の後、以下の主な意見があった。

◇この利用は 126 シフトの内数か。

◆ユーザーに使っていただく時間の一部、すなわち共用に供する時間の一定割合を登録機関として利用するというのが 12 条利用。今回は、SACLA PRC で審査いただいた課題の中で 12 条に該当する課題はなかったため、126 シフトとは別になる。12 条利用の割合の基礎となるビームタイムは 126 シフト+アルファとなり、これが結果として「共用に供するトータルの時間」となる。

◇選定委員会として、案のとおり、当面はユーザータイムの 10%程度（但し、15%を上限）とし、今後、全体の利用状況を確認しつつ、必要に応じて見直しを図っていくことを承認する。

（3）報告事項

① SACLA 利用研究課題の成果の公開について

JASRI より報告を行い、特に意見等はなかった。

（4）その他、来年度予算において XFEL 重点戦略研究課題に係る新しい文部科学省直轄のプロジェクトについて意見交換（以下、◇＝委員長又は委員、

◆＝JASRI、●＝文部科学省）

◇原量研究室長から話があった通り、重点戦略課題の予算で 10 億円がつく予定。国の公募により委託費にて研究するという形を取るが、委託費の課題に採択されたにもかかわらず、SACLA の課題審査で採択されなかった場合には、委託研究の実施に大きな支障が生じる。

ビームラインが限られていることが SPring-8 との大きな違い。XFEL は世界の中で熾烈な競争があり、トップダウン的・戦略的に研究を進めていくことが必要ではないか。そのような背景で重点戦略課題の予算が付き、進めるべきということになったものと認識。

但し、PRC における公平な課題審査とよく調和させていく必要がある。

◇XFEL 利用推進戦略会議の利用推進計画のなかで、「競争的資金や国の他のプロジェクトにおいて、審査・採択された課題については、既に科学技術イノベーション推進の観点から重要性が認められているものと考えられることから、その結果を尊重し、登録機関で行う選定においては一定の配慮がなされるべきである。」という文言を盛り込むことが認められた。

これは、登録機関の課題選定とは別口でこれから公募が始まり、5 月頃にはスタートする予定。この課題の実施者は、基本的に SACLA を使えないことには委託業務ができない。故に、「その課題の選定にあたっては、一定の配慮がなされるべきである。」となった。これをどう消化するかということ。

◆規模の大きな課題を、共用の枠の外でやることも可能性としてはあるが、ただ、利用を保証しますというやり方だと緊張関係がなくなってしまう。

◆一般課題より先に出してもらおうやり方だと、2012B 期に受け入れるのは厳しい。

◇課題の中身を PRC で審査しないで利用を認めるというのは難しいと思う。

◇文部科学省で、重点戦略課題としてサイエンスの重要性が認められた課題があったとしても、ビームタイムを割り振る作業はやはり PRC の中で、トータルでモノが見えてないといけない。タイミング的に可能であれば、選定委員会で方針を決めて、PRC で議論・作業するという方法でも良いと思う。

◇文科省の公募開始は 2 月を予定しているので、タイミング的には、2012B 期から対応できる。

●文部科学省のヒアリングは 4 月上旬。ここで大体の課題の採否が決まると思う。

◇全体的なシフト配分について、每期、PRC で案を作ってもらいたい。

◇ボーダーライン上の課題について、重点戦略課題の重みをより増して良しと選定委員会で判断されれば、PRC としても対応可能である。逆に選定委員会の判断がなければ、每期、ポリシーを変え難い。

- ◇施設側と密接に連携するような規模の大きな課題もあれば、既存の装置を使って利用研究する課題もある。2つのカテゴリーの課題が走る。
- ◇現行の一般課題／重点戦略課題と、国の委託費が付く重点戦略課題は、性格があまりにも違うので、別枠でやった方が良いのではないか。また、施設側がコミットする必要があるだろう。
- ◆規模の大きな課題は別枠というのもあり得るが、個別課題は共用の枠内で行われるべきであると考える。
- ◆ビームタイムをどう配分するか判断は、施設側の事情も良く分かった PRC で行うという方向性になったと認識。
- ◆2012B 期全体の運転計画は現時点では正式にはなく、国のシステムも固まっていないので、今日の選定委員会で最終的な方針は出せないと思う。これらが明確になった段階で、再度ご議論頂きたい。
- ◆4月上旬くらいまでに結論を出したいと思う。必要に応じてメールで審議したい。

以 上